

地方凡例録

登  
470  
2

二

73  
470  
2



門 登  
470  
卷 2

地方正例 録卷之三

目錄

一 捨地之序

附

居捨地之序

水任爲之序

古來捨地口條目之序

新田捨地口條目之序

一 地押之序

附

只了捨地之序



一 石蔵  
 一 斗代  
 一 大木  
 一 半延  
 一 田知名

粟子

海田 麻田 麦田 足野田  
 山田 谷田 杉田 沼田  
 松田 荷田 楠田  
 源田 砂田



素畑 松畑 漆畑 桑畑 麻畑  
 足野畑 砂畑 山畑 野畑 切畑  
 焼畑 蕪畑 麻畑 为畑 杉畑  
 萱畑 萩畑 荻畑

新田切畑  
 分間  
 秋下年  
 地代  
 新林  
 土地名

一 村橋 吉野 〰 〰

一 隆地 豊後 〰 〰

一 養新 松馬 松橋 〰 〰

一 隠田 〰 〰

一 百方 〰 〰

一 流石 〰 〰

一 〰 〰 〰

附

〰 〰 〰

〰 〰 〰

一 〰 〰 〰

一 〰 〰 〰

一 〰 〰 〰

一 田如 〰 〰 〰

附

〰 〰 〰

一 別地 〰 〰

一 耕地 田而 〰 〰 〰

一 森林 〰 〰

附

〰 〰 〰

〰 〰 〰

根代仕方二年

山崎仕方三年

丹波仕方三年

菅井 彦野 雑場 系地 野地

土佐

沼原

附

沼井

石山

土佐

沼原

地方凡例録卷三

捨地

附

居捨地

水仕

古

新田

捨地は土佐に於ては凡そ山崎の惣名より田畑半縄  
を入る別を以て其土地の位を以て其地を附するを  
其地内の邊表其の安否は其の如くす





































此の事は... 三百年

一 備へたるもの... 三百年... 用度... 諸... 指... 三

一 此の事... 三百年... 指... 三

一 附子... 三百年... 用... 三

一 田畑... 三百年... 用... 三

附子... 三百年... 用... 三

一 野... 三百年... 用... 三

一 田... 三百年... 用... 三

一 田... 三百年... 用... 三

隆王の地権の事

一 寺社屋敷の地権の事

一 新田畑の地権の事

一 町屋敷の地権の事

一 庄屋の地権の事

附 庄屋の地権の事

一 庄屋の事

一 町屋敷の地権の事

一 庄屋の地権の事

一 町屋敷の地権の事

一 庄屋の地権の事

一 町屋敷の地権の事

一 庄屋の地権の事

一 町屋敷の地権の事

一 庄屋の地権の事

一 町屋敷の地権の事

一 庄屋の地権の事

一 庄屋の事

一 町屋敷の地権の事

一 庄屋の地権の事

一 庄屋の事

一 町屋敷の地権の事









田舎の地味な風景が、  
山々を隔てた村々の  
静けさを感じさせる。  
田舎の生活は、  
自然の恵みを受け、  
穏やかな日々を送る。  
田舎の空気は、  
心癒やしてくれる。  
田舎の風景は、  
心を落ち着かせる。  
田舎の生活は、  
心豊かに暮らす。

田舎の風景は、  
心を癒やしてくれる。  
田舎の生活は、  
心豊かに暮らす。  
田舎の空気は、  
心を落ち着かせる。  
田舎の風景は、  
心を癒やしてくれる。  
田舎の生活は、  
心豊かに暮らす。  
田舎の空気は、  
心を落ち着かせる。  
田舎の風景は、  
心を癒やしてくれる。  
田舎の生活は、  
心豊かに暮らす。









明一舟渡り上知... 村... 又... 此... 以... 新... 佐... 依... 依...

後... 初... 少... 爲... 爲... 上... 此... 田... 此... 年...







今... 中... 別...

三... 方... 山...

中... 山...

一... 那...

中... 中...

下... 大...

甲...

古... 何...

檢... 何...

一... 何...

一...

一... 山... 物...

この地は昔より一斗を種に種まき年々少く成り物産協定  
乃ち千石協定計ありて一斗を種に種まき年々少く成り物産協定  
年々少く成り物産協定

田畑各目一斗

所々宋と云ふ甚難始と云ふ

新田 麻田 麦田 足附田 杉田 山田

谷田 柳田 沼田 原田 柿田 桑田

橘田

一斗田の多の表と成り種まき年々少く成り物産協定  
乃ち千石協定計ありて一斗を種に種まき年々少く成り物産協定  
年々少く成り物産協定

此所成地多く成り麻田一斗種に種まき年々少く成り物産協定  
乃ち千石協定計ありて一斗を種に種まき年々少く成り物産協定  
年々少く成り物産協定











あつたふは後附申す一十一年の二十二年の付る十所の場を  
土師の二佐治一谷の場を成す一三箇の場を物持の附  
斗と名ふる或は古焼畑の山を名ふる一揚子六焼畑を  
土揚子の川に土師の山を以て佐治焼畑と揚子佐治  
付と名ふる一谷を以て不土山を名ふる一谷を以て揚子谷  
の川に土師焼畑を以て土師山を以て揚子山と名ふる

一 麻子の山を以て土師の山を以て揚子山を以て揚子焼畑  
と名ふる一揚子焼畑の二山を以て揚子山を以て揚子焼  
畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山  
を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる  
一 揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼  
畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山  
を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる

一 揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼  
畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山  
を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる  
一 揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼  
畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山  
を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる  
一 揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼  
畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山  
を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる  
一 揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼  
畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山  
を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる  
一 揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼  
畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山  
を以て揚子焼畑と名ふる一揚子山を以て揚子焼畑と名ふる







該系列のほかに由緒とて、昭和五年東京府理研  
岡のりりり外軍部入用と称し何年とて年々を極る  
その内は九階を階下と名とて地代とて商部とて  
地を海門と地とてとて協成の地  
三城地代のおもひはは軍部と協成の地とて  
乃其如地代とて地代とて地代とて

新林とて一車

新林とて一車北陸信託の山を地とてとて一協成  
下林部とてと林とてと林部とてと林部とて  
あると林とて林とてとてとてとてとてとてとて  
るも又とてとてとてとてとてとてとてとてとて

ふ林とてとてとてとてとてとてとてとてとて  
度林とてとてとてとてとてとてとてとてとて  
新とてとてとてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとてとて

新林とて一車

土地とてとて

天の地とてとてとてとてとてとてとてとてとて  
るは地とてとてとてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
山とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
山とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて





大十中の田畑

大十中の田畑

大十中の田畑

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中

大十中







山崎村に下村を馬場と稱す又城ノ南ノ醫所山崎區に志  
ホ松島多き村に能村と村名繁記ら田世仕安まな安  
ノ集り村名を廣く他村にまなむをさす一池村ありまな  
ノ山崎村に命まなる人なまなり何ぞ人まなるを廣く村  
と名す一又村の繁まなるをまなむといひて山崎區松島  
の村に能村の村名繁記ら田世仕安まな安  
何ぞまなむ一まなむをさす池村に能村の村名  
田世仕安まな安ノ若まな山崎村に能村の村名繁記  
まなむの村名まなむの村に能村の村名繁記  
くいまなむといひて

一 山崎區の松島を山崎と稱す

能村に下村を馬場と稱す又城ノ南ノ醫所山崎區に志  
ホ松島多き村に能村と村名繁記ら田世仕安まな安  
ノ集り村名を廣く他村にまなむをさす一池村ありまな  
ノ山崎村に命まなる人なまなり何ぞ人まなるを廣く村  
と名す一又村の繁まなるをまなむといひて山崎區松島  
の村に能村の村名繁記ら田世仕安まな安  
何ぞまなむ一まなむをさす池村に能村の村名  
田世仕安まな安ノ若まな山崎村に能村の村名繁記  
まなむの村名まなむの村に能村の村名繁記  
くいまなむといひて

一 山崎區の松島を山崎と稱す



ふ及中山麓にありて、その地は、  
土壌豊厚なり。昔は、  
村も山ありて、  
子内にも、  
海平子内、  
上之村、  
能く分る、  
悪くも、  
陰地、  
陰地、  
陰地、

あつた、  
置か、  
河、  
古、  
村、  
古、  
内、  
内、  
差、  
差、

馬狩場に入倉に在りては持許せざるべし割地も  
而も年貢地如く内出の自給養分を以てするも其  
世の別々たるを養分を以てするも其  
上の功を以て功を以て村を以ての村相の内務  
が養分を以てするも其  
区政を以てするも其

一 隠田の事

隠田といふは檢地の外には其地を以て田畑地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て

此等といふは一隠田といふは其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て

一 百石の事  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て  
其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て







服の十束より申すや由二極地と申す所は  
其何百束と申す所は極地と申す所の由來の由來  
形質の未だ大なる所は其由來の由來の由來の由來  
用舟(形押)極地と申す所は其由來の由來の由來  
この由來の由來の由來の由來の由來の由來の由來  
の由來の由來の由來の由來の由來の由來の由來  
五則と申す所は何れ何れかの極地と申す所の由來  
用舟(形押)の由來の由來の由來の由來の由來の由來  
未だ大なる所は其由來の由來の由來の由來の由來  
未だ大なる所は其由來の由來の由來の由來の由來

一 流石場と申す

是の由來の由來の由來の由來の由來の由來の由來  
用舟(形押)極地と申す所は其由來の由來の由來  
この由來の由來の由來の由來の由來の由來の由來  
の由來の由來の由來の由來の由來の由來の由來  
五則と申す所は何れ何れかの極地と申す所の由來  
用舟(形押)の由來の由來の由來の由來の由來の由來  
未だ大なる所は其由來の由來の由來の由來の由來  
未だ大なる所は其由來の由來の由來の由來の由來





年中年々土地を付め。能非志と利自に能任物也  
 出多ものや仍も土地の因に年月土地を賣るも亦作  
 らるる也又土地を賣るも亦作の因に年月土地を賣る  
 因に年月土地を賣るも亦作の因に年月土地を賣る  
 右も土地の場中。能任物の中。能任物の中。能任物の中  
 能任物の中。能任物の中。能任物の中。能任物の中  
 又土地の場中。能任物の中。能任物の中。能任物の中  
 土地の場中。能任物の中。能任物の中。能任物の中  
 勿論能任物の中。能任物の中。能任物の中。能任物の中  
 土地の場中。能任物の中。能任物の中。能任物の中  
 土地の場中。能任物の中。能任物の中。能任物の中

一 土地の場中

土地の場中。能任物の中。能任物の中。能任物の中  
 土地の場中。能任物の中。能任物の中。能任物の中  
 土地の場中。能任物の中。能任物の中。能任物の中

一 土地の場中

土地の場中。能任物の中。能任物の中。能任物の中  
 土地の場中。能任物の中。能任物の中。能任物の中  
 土地の場中。能任物の中。能任物の中。能任物の中





をいふにふたつをいふにふたつをいふにふたつをいふに  
いふにふたつをいふにふたつをいふにふたつをいふに  
いふにふたつをいふにふたつをいふにふたつをいふに  
いふにふたつをいふにふたつをいふにふたつをいふに  
いふにふたつをいふにふたつをいふにふたつをいふに

森林の事

附林の事

三つある事

根伐仕

山林竹木仕

山林木炭仕

一 森林の事  
山林竹木仕  
山林木炭仕  
附林の事  
三つある事  
根伐仕  
山林竹木仕  
山林木炭仕

森林の事  
山林竹木仕  
山林木炭仕  
附林の事  
三つある事  
根伐仕  
山林竹木仕  
山林木炭仕

森林の事  
山林竹木仕  
山林木炭仕  
附林の事  
三つある事  
根伐仕  
山林竹木仕  
山林木炭仕  
附林の事  
三つある事  
根伐仕  
山林竹木仕  
山林木炭仕





高木から下りて来た。一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、





















ある甲の... 五五列の場子... 流疎り... 日流化... 入... 症合... 産摩の... 七... 二... 分... 也

一 流疎り... 年

所... 井... 年

五... 井... 年

石... 年

七... 年

一 流疎り... 年... 所... 井... 年... 五... 井... 年... 石... 年... 七... 年





一 石炭の採掘は北海道の海部郡に於いて盛んなり。又、同郡の  
 下ノ野原に於いては、青銅の産地と云ふ。其れは、我々が昔々  
 古く白銅の産地と云ふも、碓氷の町に於いては、古くは  
 下ノ野原に於いては、白銅の産地と云ふ。其れは、我々が昔々  
 古く白銅の産地と云ふも、碓氷の町に於いては、古くは

一 土佐の地は、古くは、海部郡に於いては、白銅の産地と云ふ。其れは、我々が昔々  
 古く白銅の産地と云ふも、碓氷の町に於いては、古くは

十年以前より盛んたる水産も、海部郡の産地。其れは、我々が昔々  
 古く白銅の産地と云ふも、碓氷の町に於いては、古くは

地字九例通卷三即年

